



神奈川県自閉症協会では、神奈川県発達障害支援センター（かながわA）や相模原市発達障害支援センターのお2人をアドバイザーにお迎えし、自閉症スペクトラムの方々を対象に、懇談会を開催しています。

11月の懇談会には、10名の皆様と2名の見学者（保護者・大学生）、6名のスタッフ等が参加しました。

第1部のテーマは「インターネットや電話について」
得手不得手は人それぞれですが、皆、ご自分の苦手な所を意識して対処されていました。



ネット情報の真偽に絡んだ“織田信長はアスペか？”との話題では、各自の持論が展開され、哲学的な深い話にもなりました。

～以下、抜粋です～

- * ネットは調べもの、電話は簡単な要件のみ利用する。大事なことは直接言いたい。
- * ネットの情報は鵜呑みにしてしまいがち。危険な画像も増えており、注意が必要。
- * 感覚過敏があり、ネット利用は目が疲れる。
- * 相手の表情がわからない。自分だけが話しすぎないように、通話時間で自制している。
- * 電話はリアルタイムなので緊張する。文字の方が気楽。受信して理解するのは苦手。
- * 論理を組み立てて電話で話すことはできるが、雑談は苦手。
- * 要件がわかるとすぐに切ってしまうため、「3秒待つてから切る」と貼紙をしている。

休憩後の第2部は、皆様から提起された話題についてです。

結婚など自立についてや障害者雇用、複数のことを同時に処理する困難さなど、和やかな雰囲気の中で多くの意見が出されました。BGMひとつを取っても、人の声が含まれないクラシックならOKとか、一定のリズムや周波数を持つテクノ系の音楽ならOK、気が散るのでBGMはない方がよい等、人によって様々です。中には高品質な外国製の耳栓よりも景品の方がフィットした方も。スタッフからは就職に向けた合同面接会やSST・障害者年金に関する情報提供もありました。

前述の織田信長のやり取りの中で、天下統一に向けた「成功者＝信長」への羨望や劣等感が率直に語られたところ、自分の特性をどう役立てて生きていくのかが大切ではないかとの意見が出ました。歴史をきっかけに、社会と本人特性がうまくかみ合った時代に思いを馳せ、発達障がいの方々が生きやすい社会をつくっていくことの大切

さを改めて実感しました。毎回、貴重な気づきのあるひとときです。
(雨宮)